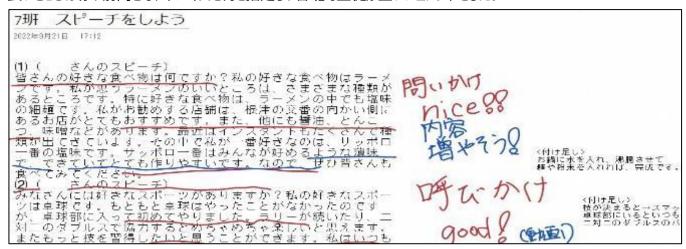
第八中学校 | 年 国語科「話の構成を工夫しよう」 ~スピーチで好きなものを紹介する~

授業のねらい

○聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように話の構成を粘り強く工夫し、学習課題に沿って好きなことを紹介する。

ICT活用の工夫

- 1 事前アンケート
- ・生徒のレディネスを調査し、生徒自身にも見通しをもたせるため、Formsを用いてスピーチに関するアンケートを実施した。
- 2 スピーチの練習
- ○タブレットで撮影
- ・視線や表情、声の大きさや速さについて振り返るため、タブレットのカメラアプリで生徒が互いに動画を撮影し、練習後に撮影した動画を確認した。
- ○ClassNotebook (teams) で文字起こし
- ・ClassNotebook の CollaborationSpace に各班のページを作成した。
- ・文字起こし機能でスピーチした内容を文字で確認し、練習後に内容の構成や順番を振り返り、聞き手にとってより分かりやすい内容を目指してさらに検討・練習した。
- ○スピーチ内容に相互コメント付記(画像参照)
- ・文字起こしした内容に ClassNotebook の描画モードでコメントを書き込んだ。
- ・良いところは赤、前向きなアドバイスを青と指定し、各班で生徒が互いにコメントをした。



3 振り返り

・スピーチの会終了後、Formsを用いて振り返りを実施した。事前アンケートと同項目を比較し、授業改善に役立てた。

児童の様子

○ClassNotebook の文字起こしや、カメラの撮影など初めての操作に戸惑うこともあったが、撮影や文字起こしによって、スピーチを可視化することで態度・姿勢や内容の構成・順番などを具体的に分析しようとする姿が見られた。

成果

○事前・事後のアンケートを比較したところ、「スピーチにおいて注意すべきこと」に関して、内容面への記述が全体的に増えたことから、内容面への意識付けに一定の効果はあった。

課題

- ○単発でなく、継続的に他教科や課外の発表、国語科の話し合い活動など、様々な機会に動画の撮影や文字起こしを行うことで、話す力やプレゼンテーション能力が向上する可能性がある。
- ○文字起こし機能は、より良いスピーチのための道具であって、原稿を完成させることが目的ではないが、スピーチ原稿を完璧にしようとする生徒が見られた。継続的に活用しながら、生徒の意識をシフトしていきたい。